

手賀沼ガシャモク通信

No. 9

☆ ミニ手賀沼への沈水植物植栽に先だって

2009 年から毎年実施している「ミニ手賀沼への沈水植物植栽」は、過去 2 回ともに移植株がアメリカザリガニの食害をうけ全滅の経緯をたどった。そこで 3 年目となる今回は、(1) 肉食魚のナマズを放流しアメリカザリガニの密度を低下させる、(2) 生きもの調べを兼ね、水位低下させアメリカザリガニ採取を行う、(3) 沈水植物を移植する、という手順を踏むこととなった。



↑ナマズ

2011.5.19

2011 年 5 月 19 日 (木) にアメリカザリガニを補食する肉食魚ナマズを放流した。印旛沼漁協から購入した体長 30cm 級の在来ナマズ 23 個体 (総体重 15kg) をミニ手賀沼に解き放った。



袋に入れて浅瀬に運び放流した



放流したナマズ

ナマズ放流によるアメリカザリガニ個体密度低減の効果を継続調査中。このナマズたちの活躍に加え 7 月 10 日 (日) に行った恒例の生きもの調査でもアメリカザリガニ駆除を実施。ナマズ効果でアメリカザリガニが激減しており、沈水植物移植後の定着に期待が高まった。



採集した生きものを仲間分けして解説

2011.7.10



水位を下げてみんなで生きもの採集



網で採った生きものをバケツに



2011.7.10



☆ 手賀沼親水広場 ミニ手賀沼に沈水植物移植

ナマズの投入によりアメリカザリガニの生息密度が低くなったことが確認できたミニ手賀沼に、2011年7月24日(日)沈水植物の植栽を行った。植栽の前に30分ほど、ザリガニやオタマジャクシの駆除を実施。

例年のように浅間茂先生が、千葉高校のビオトープから間引いてきたガシャモク・インバモ・ササバモを市民で植栽した。手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会が手賀沼フィッシングセンターの協力を得て育成したセキショウモの苗は、トウモロコシデンプン製の台所用排水ネットや素焼き鉢を用いた移植を試みた。

水位を下げたミニ手賀沼では、アメリカザリガニ駆除に活躍してくれたナマズを捕まえて皆で見ることもできた。もっと活躍してもらうために再放流した。



移植に先立ち、再びザリガニ採取・駆除

2011.7.24



移植用に運び込んだ沈水植物



移植する沈水植物について、起源や生態などを説明



移植に用いたササバモとガシャモク



移植に用いたセキショウモ



あちこちに移植された沈水植物の様子 2011.7.24



移植の仕方をていねいに説明



捕獲されたナマズ
アメリカザリガニ駆除のため再放流

捕獲されたコイ

ナマズも獲れた！

2011.7.24



皆で思い思いの場所に移植をすすめた

2011.7.24



食害防止のためネットに入れた状態も試すこととした



セキショウモはしっかり根付いた素焼き鉢ごと配置

☆ ミニ手賀沼への沈水植物植栽の経過観察



移植したササバモは群落となって初冬まで生残。その後、オオバンに食害された。

2011.11.24

☆ 柏市鷲野谷水路へ移植した沈水植物の経過



2011.4.25

2009年に実施した柏市鷲野谷地区での沈水植物移植定着化の試みのその後を検証した。移植地点では、4月時点でヤナギモが大きな群落に生長しており、ササバモも生残して大きく育っている株が認められた。優占種は、オランダガラシ（クレソン）であった。

その後、岸辺の改修工事が実施され水路は変容し、定着が確認されたササバモは、完全に姿を消し、僅かにヤナギモが残るのみとなってしまった。しかし、透明度の高い水量豊かな流れがあり、川底も砂質で良好な環境が維持されていることから来春以降に再度群落が形成されることが期待できる。



2011.4.25

千切れた植物体によるとと思われる下流域のヤナギモ繁茂地拡大が、改修工事前に確認された。また、改修工事がなされた後にも場所を変えながらヤナギモが生残していることが確認できた。



2012.1.9

この「手賀沼ガシャモク通信 7号」は、「手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会」の会報「手賀沼マシジミ・ガシャモクだより」66号、67号、68号、69号から記事を一部抜粋して編集しています。

手賀沼ガシャモク通信 No. 9

平成 24 年 3 月 5 日発行

手賀沼水環境保全協議会

事務局

〒260-8667 千葉市中央区市場町 1-1 千葉県環境生活部水質保全課湖沼浄化対策室

電話：043-223-3821 E-mail：suiho5@mz.pref.chiba.lg.jp